

第5回 小田川合流点付替え事業 環境影響評価フォローアップ委員会 議事要旨

開催日時：令和3年9月24日（金）14：00～16：00

場 所：倉敷市真備支所1階 101会議室

出席委員：全委員（7名）出席（オンライン参加）

議事要旨：

1. 真備緊急治水対策プロジェクト進捗状況

事務局：真備緊急治水対策プロジェクトのうち、国で実施している工事の進捗状況を報告。

- ・南山掘削：事業工期の5年間短縮のため大型重機を活用して掘削を進め、山頂から約50m下まで掘削が完了し、残りは約10m。
- ・柳井原貯水池の堤防整備：南山掘削の発生土砂、岩砕を活用して築堤盛土の整備中。
- ・柳井原貯水池の覆砂：マイクロポンプを用いて真砂で覆砂し、JR新幹線より下流は施工済。現在、アサザ保全池にて盛土・覆砂中。今後、上流側にて陸上施工により盛土・覆砂の予定。
- ・新合流点の橋梁建設：令和2年度に橋脚、橋台を施工し、橋桁設置済み。令和4年度内の開通に向けて工事中。
- ・小田川の河道掘削：令和3年6月に完了。約308,000立米を掘削し堤防強化に活用。
- ・小田川の堤防強化：堤防天端幅を概ね5mから7mに拡幅。令和3年度内に概成予定。

2. 環境モニタリング調査結果【令和2年9月-令和3年8月】【資料-1】

（1）大気環境調査

委員：発破による騒音・振動に対し、騒音規制法や振動規制法等の公害に対する法律では規制はなく、火薬学会等が基準、目安となる数値を公表しているため、事務局に対し、この参照値を超えているかどうかの確認をお願いしている。騒音・振動の場合は、建設工事であれば杭打機やブレーカのように継続時間が長いものに対しての参照値はあるが、継続時間が短く1日に1回、2回しか行わない発破に対して、参照値をどのように捉えるかが非常に難しい。専門的には情緒的妨害というが、値よりもむしろ心理的な要因が重要視され、騒音・振動では苦情が出ると公害となる。そのため、モニタリングをお願いしているが、数値がどうかというよりも住民の苦情を聞くということが非常に大きな結果、立派なモニタリングであるので、住民感情のモニタリングを引き続き実施して欲しい。

（2）水環境調査

委員：小田川堤外水路でのD0低下について、藻類の増殖とは関係なく発生しているようであり、これについて突き詰めると研究の域に入る。D0の減少が魚類や貝類、特に容易に動けない貝類に影響すると思われたが、魚介類が死ぬような深刻な影響はなかったことから、調査結果としてはD0の減少に伴う影響は認められなかったという結論とした。

（3）動物調査

委員：猛禽類調査では、工事箇所の近辺でミサゴ、オオタカ、サシバが結構繁殖しており、これだけ規模の大きな工事中でもその近辺で繁殖できるということは、工事に際してかなりの配慮があったと理解願いたい。

委員：タナゴ類調査では、タナゴ類の個体数の年変化が示されている。タナゴ類にとって二枚貝類が繁殖基盤として重要であるように、二枚貝類の幼生が育つには他の魚類が重要であるため、他の魚類の年変化についても知りたい。

事務局：種数については例年と同程度の種が確認されている。

(4) 植物調査

- 委員：アサザの捕食者をヌートリアだけと考えてよいのか。ミシシッピアカミミガメやアメリカザリガニの可能性はないのか。
- 委員：食害防止柵メッシュで被っただけでは下から潜るため、かなり深く掘って返しをつけ、掘っても下からくぐれないようにすると被害が防止できた。それなりの知能がある種の仕業ということでヌートリアではないだろうかと判断した。

3. 環境巡視結果の概要【令和2年9月-令和3年8月】【資料-2】

- 委員：騒音・振動対策として低騒音・低振動型機械を採用していることを強調した方がよい。

4. その他

- 委員：真備在住の方から、堤防除草を従来の草刈り機から大型車両草刈り機で効率よく行うことにより、幼虫の食草であるウマノスズクサが広範囲にわたって一斉に刈り取られるためにジャコウアゲハが激減しているとの情報が寄せられている。両種は重要種ではないが、同様に目立たない種が同じような状況になっているのではないかと危惧する。費用対効果を考える必要があるが、配慮策を検討願いたい。
- 事務局：方法の変更は難しいが、エリアを設定して保全する、部分的に手刈りすることは可能かと思うので、情報を聞きながら検討していきたい。
- 委員：ウマノスズクサは、新しく堤防を整備したような箇所では生育が回復するのに時間がかかる。このような種を意図的に増やすエリアがあってもいいと考える。今後整備するアサザ保全池の周辺の斜面はかなり緩い傾斜であり、様々な活用の仕方が考えられる。
- 事務局：県管理区間も含め、検討していきたい。

以上